



共通教育への誘い

豊かな学修のために

- 外国語、数理自然科目、運動文化の学修の目安と履修モデル
- キャリア形成支援とGenEPの取り組み

CONTENTS 目次

1.	はじめに	02
----	------	----

2.	外国語科目の目的と到達のポイント、 学習動機別履修モデル	04
----	---------------------------------	----

- (1) 英語
- (2) ドイツ語
- (3) フランス語
- (4) 中国語
- (5) ロシア語
- (6) 朝鮮語
- (7) スペイン語
- (8) アラビア語
- (9) 日本語

3.	数理・自然基礎科目の目的と到達のポイント、 学習動機別履修モデル	22
----	-------------------------------------	----

4.	運動文化科目の目的と到達のポイント、 学習動機別履修モデル	26
----	----------------------------------	----

5.	現代GP「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」 の取組と関連科目	28
----	--	----

6.	ジェンダー教育プログラム（GenEP） の取組と関連科目	32
----	---------------------------------	----

1. はじめに

本冊子は、全学共通教育科目の体系的な履修計画の参考となるように、積み上げを意識して配置された科目群における各科目の目的と到達のポイント、学習動機別の履修モデルを、学修計画ガイドブックから抜き出して、特集したものです。併せて、全学共通教育における特色ある取組である「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」（平成19年度現代GP）とジェンダー教育プログラム（GenEP）、それらの関連科目について紹介しています。

大学によって呼び名は違いますが、全学共通教育・教養教育の理念、基本的な考え方は共通していて、主に二つの目的があります。一つは各学部における専門教育を学ぶための基礎的な勉強態度・能力を身につけること、そしてもう一つは、専門領域の論理や方法論にとらわれることのない複眼的で幅広い視点を獲得することです。これらは異なっているように見えても、実は同じことがらなのです。

商学、経済学、法学、社会学のどの分野にせよ、社会にアピールできる専門的能力を身に付けるためには英語や他の外国語、ときには数学・情報の基礎的な力が必要になることでしょう。しかし、それだけでは十分ではありません。何よりもまず、自らの身体・健康を律する力が必要です。そして専門の学修を確実なものにするためには、その前に、人文・社会科学はもとより自然科学を含む総合的で幅広い知識を身につけておく必要があります。これらは、いわば専門の基礎としての全学共通教育の役割であり、共通基礎科目および総合科目として様々な科目が提供されています。

しかし全学共通教育のそれぞれの分野は、一方で専門とは異なる固有の論理や方法論を持っています。一歩進んでこれらを理解し身に付けることが、専門にとらわれない複眼的で幅広い視点を獲得することにつながり、あなたの本学における学修をさらに実り豊かなものにすることでしょう。そのために、全学共通教育ではそれぞれの分野の中である程度の積み上げを可能にし、体系的に学べるように共通発展科目を設けています。そして、皆さんがどの学部にも所属されるかに関係なく、4年間を通じて全学共通教育を履修することが義務付けられていることの意味合いもこの点にあります。

もちろん全学共通教育のすべての分野で進んだ学習が行えれば理想的ですが、現実的には不可能でしょう。したがって全学共通教育においても、4年間という限られた時間の中で、自らの学習目的に応じて分野を絞り、しっかりと学修計画を立てる必要があります。例えば、大学で新たに学んだ言語を手がかりにその国の文化、歴史、社会について多面的に学びを深めてゆくのもよいでしょう。社会科学においても数学・統計的な手法や情報技術を必要とする場面は確実に広がっていますから、そのような力を身につけるために数学や情報科学について体系的に学ぶのもよいでしょう。また、自然科学や運動文化について広く学びたいと思う人もいれば、総合科目を含む幅広い科目群の中から自分でテーマを設定して自分なりのカリキュラムを組み立てたいと思う人もいることでしょう。全学共通教育では皆さんのような学びの欲求に応えられるように、多様な科目が提供されています。

選択の自由が履修上おおきく認められているのは、皆さんがそれぞれの問題関心や学習動機にしたがって学修計画を立て、また専門を学ぶ中で必要と感じたことがらを随時選択して学べるようにするためです。ものを考える基盤を幅広い視野の中で養っていくために、全学共通教育を重視することは、一橋大学の教育の大きな柱の一つであり伝統でもあります。またその精神は一橋の学問の中に脈々と息づき受け継がれてきています。学生の皆さんもまた新たな担い手として、一橋の「学び」の伝統を継承しながら、自らの「学び」を組み立てていくことになるのです。

本冊子および学修計画ガイドブックを参考に、自らのキャリア形成と社会のあり方を見据え、それぞれの学習動機に応じた学修計画をしっかりと立ててください。そのとき、全学共通教育は、きっとあなたの人生を豊かにするものなることでしょう。

全学共通教育科目の構成表

	共通基礎			共通発展
	必修	外国語・数理情報 12単位	自由選択	
英語	英語ⅠA、ⅠB、Ⅱ	英語Ⅲ	英語初級	外国語上級
初修外国語	クラス制語学	初級（A） 中級 ギリシア語、ラテン語Ⅰ	初級B	上級* ギリシア語、 ラテン語Ⅱ、Ⅲ*
言語文化			（言語文化Ⅰ）	（言語文化Ⅱ）
数理情報		線型代数ⅠA、ⅠB、Ⅱ 微分積分ⅠA、ⅠB、Ⅱ 集合と位相Ⅰ、Ⅱ 確率 情報基礎 計算機概論		線型代数統論 微分積分統論 数理論理学Ⅰ、Ⅱ 情報数学A、B
自然			サイエンスミニマム 生命科学基礎 物質科学 物理学基礎 サイエンス工房	生態学 環境科学 自然科学史 地球システム 地球科学 現代物理学 生命科学発展 物質とエネルギー
運動文化	スポーツ方法Ⅰ			スポーツ方法Ⅱ スポーツ文化 スポーツと映像文化 現代スポーツ論 地域社会とスポーツ 現代社会とスポーツ 運動と体力の科学 ヒューマンセクソロジー
総合科目			（社会科学）（人文・思想）（学際テーマ） （如水会寄附講義） 教養ゼミナール	
日本語科目および 日本事情等に関する科目			（外国人留学生のための科目）	

*初修外国語の*のついた共通発展科目は「外国語および数理情報」の12単位に算入される。

2. 外国語科目の目的と到達のポイント、学習動機別履修モデル

1 英語

外国語科目の英語は、大学生としての英語の基礎を充実させ、さらなる発展への橋渡しをするための「英語Ⅰ（英語ⅠA・英語ⅠB）」のほか、オーラル、ライティング、リーディングなど英語の種々のスキル別に選択できる「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」、さらに高度な英語力の養成を目的とした「外国語上級」など、各自の関心と意欲に応じて履修できる多種多様な科目が用意されています。

(1) 英語Ⅰについて

■英語ⅠA・英語ⅠBは「習う英語」から「使う英語」への転換に主眼を置き、英語の教養および理解・運用の基礎を充実された上で、21世紀の一橋大生にふさわしい学問的かつ実践的な英語力を着実に身につけることを目標とします。

■英語ⅠAは、英語を広く深く能動的に読む能力を養うとともに、日本語と英語の言語文化の相違に注意を払い、鋭い言語感覚を身につけることを目指します。

■英語ⅠBは、授業を英語で行い、リスニング能力に加えて、テキストの正確な読解に基づいて英語で主体的に自分の考えを発信するための能力を養います。

The course will be conducted in English, and is designed to help students to improve their reading skill, to learn to communicate actively in English about information, ideas and issues in the readings, and to function in a student-centered, English-speaking classroom environment.

- (1)英語ⅠA・英語ⅠBともに、各クラスの定員は原則25名とする。

(2)英語ⅠA・英語ⅠBともに、習熟度に応じて「発展」「標準」「基礎強化」の3つのレベルのクラスを設け、履修者は各自に推奨されたレベルのクラスを受講することを原則とする。

英語ⅠBの習熟度（レベル）、基礎強化レベル（Lower Intermediate Level）、標準レベル（Intermediate Level）、発展レベル（Upper Intermediate Level）の概要は以下のようなものである。

The Lower Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas, vocabulary development, and basic presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

The Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas organizing and summarizing information, vocabulary development, and presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

The Upper Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas, organizing and summarizing information, critical thinking skills, vocabulary development, and presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

(3)英語ⅠAは、教材として、クラスごとに教科書および副読本を指定する。

(4)英語ⅠBは、それぞれのレベルごとに共通の教科書を指定する。

(2) 英語Ⅱについて

■英語Ⅱは言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、英語の理解と運用の能力を養うことを目的とした科目であり、次のクラスが用意されています。

オーラル・スキル	口頭で意思や意見を表現・伝達する能力を養成するクラス。
ライティング・スキル	自分の意見や主張の概略を文章で表現する能力および、基礎的な説明文や叙述文を書く能力を養成するクラス。

LL	語学ラボラトリーで行なわれ、基礎から標準程度の音声英語を聴解する能力を養成するクラス。
リーディング・スキル	様々なジャンルの英文を読みこなす能力を養成するクラス。
海外語学研修	夏季休暇中に海外の提携校で行われる4週間のプログラムに参加し、習熟度別の少人数クラスで英語の運用能力を総合的に養成することを目指すクラス。

(3) 英語Ⅲについて

■英語Ⅲは英語Ⅱよりも高度な内容を扱う科目であり、次のクラスが用意されています。

オーラル・スキル	英語で議論に参加できる聴解力と口頭表現力を養成するクラス。
ライティング・スキル	自分の意見や主張を正確な文章で表現する能力、およびより高度かつ複雑な叙述を行うための作文力を養成するクラス。
LL	語学ラボラトリーで行なわれ、基礎から標準程度の音声英語を聴解する能力を養成するクラス。
リーディング・スキル	様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む能力を養成するクラス。
資格試験対策	TOEFL、TOEIC、IELTSの受験準備を行うクラス。
海外語学研修	夏季休暇中に海外の提携校で行われる4週間のプログラムに参加し、習熟度別の少人数クラスで英語の運用能力を総合的に養成することを目指すクラス。

(4) 外国語上級（英語）について

■選択科目。英語Ⅲよりもさらに高度な英語の理解ならびに運用の能力を養うことを目的とする。次のクラスが用意されています。

リーディング・スキル	高度な内容をもった英文を的確に読みこなし、その文意を正確に把握することを目指すクラス。
オーラル・スキル	より複雑な内容を英語により口頭で表現する能力を養うことを目指すクラス。
ライティング・スキル	英語による高度で論理的な文章表現能力を養うことを目指すクラス。

英語履修案内

学習動機	在学中・卒業後の長期留学の準備をしたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・言語文化科目（英語圏地域文化論〈イギリス・アメリカ〉） 3～4年次▶ 英語Ⅲまたは上級英語 「話す・聴く」技能については、ディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。留学前に自分の弱点を強化できるよう、オーラル、ライティング、リーディング、資格試験対策の各科目をバランスよく履修し、とくに聴解が苦手であればLLをさらに履修する。また言語文化科目の「英語圏地域文化論（イギリス）」、「英語圏地域文化論（アメリカ）」などを選択し、英語圏文化への理解を深める。英語科主催の海外語学研修に参加し、集中的に英語の勉強をするとともに英語圏での生活を経験しておく。授業とは別にTOEFLなどの受験対策として、「ネットアカデミー2」などのCALL教材を利用し、速いスピードで聴く・読む訓練をしておく。
学習動機	将来、仕事(ex.海外の企業、国内の外資系企業等)で、英語を日常的に用いる仕事に就きたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・言語文化科目（英語圏地域文化論〈イギリス・アメリカ〉） 3～4年次▶ 英語Ⅲまたは上級英語 「話す・聴く」技能については、プレゼンテーションやディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。英語Ⅲはオーラル、ライティング、リーディングを履修する。とくにライティングは上級の「ライティング・スキル」で高度な能力を身につけることが望ましい。また言語文化科目の「英語圏地域文化論（イギリス）」、「英語圏地域文化論（アメリカ）」などを選択し、英語圏文化への理解を深める。英語科主催の海外語学研修に参加し、集中的に英語の勉強をするとともに英語圏での生活を経験しておく。「ネットアカデミー2」などのCALL教材を利用し、幅広い知識を身につけるとともに、速いスピードで聴く・読む訓練をしておく。
学習動機	大学院進学を視野に入れ、専門分野で英語を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・教養ゼミ（英米文学・英語学関連） 3～4年次▶ 英語Ⅲまたは上級英語、言語文化科目（英語圏文学Ⅱ〈イギリス〉・英語圏文学Ⅴ〈アメリカ〉）、英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ 「話す・聴く」技能については、ディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。英語科主催の海外語学研修に参加し、現地で集中的に英語の勉強をするともに視野を広げておくのがよい。4年次にはとくに英語Ⅲのリーディングや言語文化科目の英語圏文学Ⅱ（イギリス）・英語圏文学Ⅴ（アメリカ）などを履修し、正確なだけでなく批判的に読むための訓練を行うことが望ましい。
学習動機	卒業論文やレポート作成のために、英語の文献を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・教養ゼミ（英語圏文学・英語学関連） 3～4年次▶ 英語Ⅲまたは言語文化科目（英語圏文学Ⅱ〈イギリス〉・英語圏文学Ⅴ〈アメリカ〉・英語学〈英語学概論・英語学各論〉）、英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ 「話す・聴く」技能については、効果的な情報収集ができる程度まで、「書く」については、パラグラフを理解する程度まで、「読む」については、英文を正確に速く読める力を身につけることが望ましい。言語文化科目の「英語圏文学Ⅱ」、「英語圏文学Ⅴ」などを履修し、傍証の方法、出典の示し方を学ぶ。文献の探し方については、教養ゼミやサブゼミの指導教員に相談するとよい。

学習動機	英語教員免許を取得したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ、言語文化科目（教職関連） 2 年 次▶ 英語Ⅲ・言語文化科目（教職関連）、英語科教育法 3～4年次▶ 英語Ⅲ、言語文化科目（教職関連）、英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ、共通ゼミ（英語圏文学・英語学関連） どの学部 of 学生も中学・高校の英語教員免許が取得できる。教育職員免許法施行規則で定められている4つのカテゴリー「英語学」、「英米文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」から最低1単位ずつ、中学校用は計28単位、高校用は計36単位を修めなければならないので、1年次から計画的に履修すること。詳しくは「履修ルールブック」および「学修計画ガイドブック」を参照のこと。教員には海外滞在経験やバランスの取れた英語力が要求されるので、「話す・聴く」技能については確かな情報収集ができる程度まで、「書く」については、パラグラフ・ライティング程度まで、「読む」については、英文を正確に速く読める力を身につけておくのが望ましい。英語科主催の海外短期研修プログラムに参加し、集中的に英語の勉強をするとともに、英語圏での生活を経験しておくのがよい。TOEICを課されることも多いので、「ネットアカデミー2」などのCALL教材で勉強をしておく。
学習動機	将来仕事で英語を使うかどうかはわからないが、英語圏の文化(小説、英語、ジャーナリズム、音楽、映画など)に親しみたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・教養ゼミ（英語圏文学・英語学関連） 3～4年次▶ 言語文化科目（英語圏文学・英語学関連）英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ、共通ゼミ（英語圏文学・英語学関連） 「話す・聴く」技能については、情報収集ができる程度まで、「書く」については、パラグラフを理解する程度まで、「読む」については、英文を正確に速く読める力を身につけることが望ましい。言語文化科目の「英語圏研究入門（イギリス）」、「英語圏研究入門（アメリカ）」、「英語圏地域文化論（イギリス）」や「英語圏地域文化論（アメリカ）」では、英米以外の英語圏の文化を扱う場合もあるので、シラバスによく目を通し、履修すること。「英語圏文学Ⅰ（イギリス）」、「英語圏文学Ⅳ（アメリカ）」も同様に、広く英語圏の文化を論じ、また文学以外の表象文化を扱う場合もあるので、先入観にとらわれずに奮って参加してほしい。
学習動機	英語に関心があり、英語について深く学びたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 英語ⅠA・ⅠB、英語Ⅱ 2 年 次▶ 英語Ⅲ・言語文化科目（英語学・言語学関係）、教養ゼミ（英語学・言語学関係） 3～4年次▶ 言語文化科目（英語学・言語学関係）、共通ゼミ（英語学・言語学関係） まず、英語の各技能（「話す」「聴く」「読む」「書く」）を徹底的にみがき、英語そのものに十分に習熟するように努め、その上で英語学・言語学関係科目（「英語学（英語学概説）」「英語学（英語学各論）」「英語学（英語史）」「教養ゼミ」）を履修して英語についての語学的な認識と理解を得るようにする。「英語学（英語学概説）」は英語学・言語学の各分野を幅広く扱い、「英語学（英語学各論）」は英語学・言語学の特定の具体的なテーマを扱うので、これらの科目を履修することにより自分の関心の方向を発見していただきたい。後期課程では英語学・言語学関係の「共通ゼミ」において自分の関心の方向に沿ってさらに深く研究を行なうことができる。卒業後の進路としては、英語についての深い知識を生かした英語関係の教職や一般企業への就職のほか、大学院への進学も有力な選択肢となるであろう。

「英語学習支援のページ」（一橋大学英語科のホームページ）も参考にして下さい。▶ <http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~engdept/>

2

ドイツ語

ドイツ語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) ドイツ語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	ドイツ語の基本的な文法・語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、ドイツ語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるドイツ語的な発想（認知的枠組み）・思考・価値観・文化のありようを理解する。 読む ▶ 日常的・身近な分野についての平易な文章なら比較的容易に読解できるようになる。 書く < ▶ 学習した基本的文法・語彙を用いてごく簡単な内容のメールや手紙を書けるようになる。 話す・聞く ▶ ごく簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手が簡単な構文・語彙でゆっくり話す場合であれば理解できるようになる。	600	ドイツ語技能 検定試験4級合格程度 (ゲーテ A2: スタート・ドイツ語 2 程度)
中級	初級では文の枠内の文法を学習した。中級では、文を超えたレベル、すなわち「談話」の中でも、ドイツ語をかなりの程度、実践・応用ができるようにする。ドイツ語圏の国々の文化・社会・歴史についての知識・理解を一層深める。 読む ▶ 辞書を用いて、日常・社会生活のテーマに関する比較的高度な内容・構文の文章を読解できるようになる。またウェブなどで記事の概要を把握でき、学部(大学院)での学習(研究)の際に基本的な資料を使うことができる。 書く < ▶ やや長めのメールや手紙を書くことができるようになる。 話す・聞く ▶ ドイツ語圏の国々に旅行した際に、基本的な意思疎通ができる。日常的な話題について平易なドイツ語で明瞭に話されれば理解できるようになる。	1000	ドイツ語技能 検定3級合格程度 (ゲーテ B1: ドイツ語 基礎統一試験程度)
上級	ドイツ語を多様な状況・テキストにおいてかなり自由に使いこなせる。また大学院などで、専門研究のための文献を扱うことができるようになる。 読む ▶ 専門的学術書・論文など高度な内容・構文のテキストも、辞書を用いて理解できる。 書く < ▶ 前後の文脈との整合性、文体効果を考慮しつつ、より内容の豊かな文章を書くことができる。 話す・聞く ▶ 日常生活や社会生活についての馴染みのある話題についてならば、ほぼ支障なく口頭で意見交換、質疑応答などのコミュニケーションがとれる。	3000	ドイツ語技能 検定2級合格程度 (ゲーテ B2: 職業ドイツ語 検定試験程度)

(2) ドイツ語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門(研究・仕事)でドイツ語を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業+初級Bを1コマ履修。 2 年 次 ▶ 中級2～3コマを履修。コミュニケーションと読解の授業をなるべくバランスよく選択する。 3～4年次 ▶ 上級2コマ程度、およびドイツ語を扱う後期ゼミを履修。 この間、1～2ヶ月の短期語学留学をすればより効果的。
学習動機	将来ドイツ語を専門的に用いるか分からないが、旅行などでは役に立てたい。または研究や仕事の資料調査で概要を把握できるくらいにしたい。
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業+初級Bを1コマ履修。 2 年 次 ▶ 中級2コマを履修。会話を重視する場合と資料調査力を重視する場合によって、コミュニケーションと読解のクラスを選択する。 3～4年次 ▶ 上級1コマ程度、またはドイツ語を扱う後期ゼミを履修して、1～2年次で習得したドイツ語能力の向上をはかる。
学習動機	ドイツ語圏の歴史や文化に興味があり、いろいろな情報に直接触れたい。
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業、言語文化科目1コマ(ドイツ語圏研究入門)。 2 年 次 ▶ 中級1コマ以上を履修。言語文化科目2コマ程度 (ドイツ語圏文学、ドイツ語圏思想、ドイツ語圏地域文化論などドイツ語圏関係)

初修外国語のすすめ (1)

■目標はスラスラ・ペラペラ？

皆さんだれしも、「外国語がスラスラに読めたら、外国人相手にペラペラ話せたら、どんなに素晴らしいだろう」と思っていないませんか？確かに、「スラスラ読める、ペラペラ話せる」ことには、いろいろな実際の効用があります。しかし、外国語を学ぶことの意義は、そういった現実的効用にのみあるのでしょうか？

■人間より言語が先

「人間より言語が先に存在する」といわれれば、皆さんは「えっ、そんなばかな!」と思うかもしれません。確かに、言語だけがあって人間はまだいないという状況などはありえませんからね。でも、私達一人一人について言うなら、「言語の方が先に存在している」のが現実です。なぜなら私達は誰しも、必ずある言語の中に生まれてくるからです。そして私達は、その中に生まれてきた言語を通して現実を眺め、個々の事物を認識し、思考し、表現することを習得します。この事実が、私達と自言語との関係を規定しています。自言語とは、私達にとって「第二の自然」、私達が見たり聞いたり感じたり考えたりするやり方を、あたかも「自然な」ものであるかのように決定しているものなのです。(続)

3

フランス語

フランス語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) フランス語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	フランス語の発音と綴り字の関係、基本的な文法や語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。 読む ▶ 日常ないし身近な分野についての文章や、Webサイトのニュース記事の見出し・要約部分などを、辞書を引きながら独力で比較的容易に読解できるようになる。 書く ▶ 学習した基本文型を用いて、ごく簡単な内容を書くことができるようになる。友人にむけた短い手紙・メールを書けるようになる。 話す・聞く ▶ 自分について表現するための最低限の表現力を獲得し、日常生活で遭遇する具体的な状況において相手がゆっくり話す場合であれば、簡単なコミュニケーションができるようになる。	800	仏検4級・ DELF A2程度
中級	初級の学習内容を補完し（接続法半過去・大過去など）、それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。フランス語圏の文化について理解を深める。 読む ▶ 辞書を引れば、ある程度高度なテキスト(新聞記事、評論、文芸作品、哲学・思想書など)を独力で理解し、必要な情報を取り出してくることができるようになる。研究でフランス語を使用するさいの最低限の基礎を習得する。 書く ▶ 辞書・参考書の助けを借りれば、論理的な構成をもつ4-5行程度の文章を書けるようになる。より表現力に富んだ比較的長い手紙・メールを書けるようになる。 話す・聞く ▶ 定型表現に習熟し、自分に馴染みのある内容について標準的な表現ではっきりと話されれば理解できるようになる。旅行先において簡単な問題を解決したり、自分の関心事や計画について短く説明することができるようになる。	1500	仏検3級・ DELF B1程度
上級	フランス語文法に十分習熟し、状況に応じてかなり自由に使いこなすことができるようになる。困難を感じることもあるが、ほとんどの場合にフランス語で対処し、問題を解決できるようになる。この段階にまで達すれば、フランス語を自分のものにできたと見え、各自の必要に応じて今後問題なく運用力を深めていくことができる。 読む ▶ かなり高度なテキスト(接続法や条件法が頻出したり、フランス語特有のレトリックを含むものなど)を、それほど困難なく読解できるようになる。 書く ▶ 辞書・参考書の助けを借りれば、日常生活や学校・職場で必要な内容について比較的自由に表現することができるようになる。 話す・聞く ▶ リラックスした状況であれば、日常生活や学校・職場で必要な内容について、適切な構文と表現で、ほぼ支障なくコミュニケーションがとれる。なじみのない話題や複雑な議論に自在に参加するところまではいかないが、それでも話の流れの概略を追うことはできるようになる。テレビ・ニュースの概要も理解できるようになる。	3000	仏検2級・ DELF B2程度

(2) フランス語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門（研究・仕事）でフランス語を活用したい
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（2コマ）で基礎を学ぶとともに、フランス人教師による初級Bも履修。 2 年 次 ▶ 中級2コマ履修。読解とコミュニケーションをバランスよく学習できるように科目選択する。 3～4年次 ▶ 上級2コマおよびフランス語を扱う共通ゼミを履修。 この間、どこかの1ヶ月程度の短期語学留学をすればより効果的であろう。
学習動機	将来フランス語を専門的に用いるか分らないが、フランス語には大変興味があり、基礎をしっかりと身につけておきたい。
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（2コマ）+初級B1コマ。 2 年 次 ▶ 中級2コマ。 3～4年次 ▶ 上級1コマを履修し、1～2年次で習得したフランス語能力の維持をはかる。 もちろん、学習するうちに興味がました場合は、適宜履修科目数を増やせばよい。
学習動機	専門的にフランス語を用いることはないが、旅行ではフランス語を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（2コマ）+初級B1コマ。 日本人教師によるクラス授業のかわりにフランス人教師によるクラス授業を履修してもよい。 2 年 次 ▶ 中級2コマ。とくにフランス人のクラスを履修し、コミュニケーション力を磨く。 もちろん、余裕があれば3～4年次に上級を履修してもよい。

初修外国語のすすめ (2)

■外国語って何？

しかし、様々な言語があるということは、現実を認識し思考するやり方が、実は多様に存在している、ということです。

「外国語を学ぶ」ことによって、私たちは、自国語によるのとは異なる現実の見方や考え方を習得し、それを通して私たちの「自然な」ものの見方や考え方が、必ずしも「自然」ではないことを知り、こうして私たちの「自然」を相対化することができます。外国語が開いてくれるこの新たな世界の魅力を、皆さんは既に最初の外国語を通して体験しているはずです。これから皆さんが学ぼうとしている初修外国語は、その新たな世界をさらに拡大すると同時に、最初の外国語が与えてくれたものの見方や考え方を相対化する、より複眼的な視野を開いてくれるでしょう。（続）

4

中国語

中国語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) 中国語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	一通りの中国語文法を習得し、それを運用して簡単な中国語を、聞き・話し・書くことができる。また、日本語や英語との比較から、中国語ならではの表現方法に着目し、その背後にある中国語的な発想（認識枠組み）について理解する。 読む ▶ 日常生活や身近な分野について平易に書かれた文章を、辞書を引きながら読むことができる（1時間で400字程度）。 書く < ▶ 簡単なメールや手紙を書くことができる。 話す・聞く ▶ 中国語の発音が正しくできる（ピンインの読み書きが正確にできる）。片言でなんとか中国を観光旅行できる会話能力。	550	中国語検定4級 HSK(中国語水平考試) 1級相当
中級	初級で習得した文法知識の上に、節と節との関係の把握、複文や各語のもつ言い回しについて経験を積み慣れ、実用のレベルにもってゆく。日本語や英語との比較から、中国語ならではの表現方法に着目し、その背後にある中国語的な発想（認識枠組み）について一層の理解を得る。またテキストの読解に欠かせない中国文化、社会、歴史についての知識、理解を併せて深める。 読む ▶ 辞書を用いれば、新聞、雑誌記事を、構文を正確に把握しながら読むことができる。 書く < ▶ 身近な話題について、中国語の表現方法を運用しながら作文をすることができる。 話す・聞く ▶ 日常生活や学校・職場で必要な中国語を理解、自己表現を行う初歩的な能力を身につける（留学などに必要最低限の会話能力）	1200	中国語検定3級 HSK2～3級相当
上級	テキストの背後にある中国固有の歴史的、社会的文脈を理解し、それらをふまえて文章を理解し、あるいは自己表現を行う初歩的な力を身につける。この段階まで達すれば、中国語を自分のものにできたことになる。後は加速度的に運用力が増す。 読む ▶ 学術論文、文学表現など高度なテキストを、辞書を引きながら読解できる基礎的な能力が身についている。 書く < ▶ 複文や定型的表現を応用して、論理性を備えた文章を書くことができる。 話す・聞く ▶ 議論の場において、その流れを把握し、自らの見解を論理的に表現できる。	2500	中国語検定2級or準1級 HSK4級～5級相当

(2) 中国語履修案内

学習動機	将来仕事で中国語を使いたい（プロの通訳、翻訳家以外） 到達のポイント 上級レベルの達成（各分野において）
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（週2～3コマ） 3～4年次 ▶ 上級（1年あたり週2コマ以上） ＊短期留学は不可欠。長期（1年間）留学が望まれる。 ＊2年次以降は、「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」の各分野の授業をバランスよく履修する。
学習動機	大学院進学、研究者として中国語を使用したい。 到達のポイント 上級レベルの「読む」・「書く」を主として達成
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（講読の授業を中心に週2～3コマ） 3～4年次 ▶ 上級（講読の授業、作文の授業を、それぞれ1年あたり週1コマ以上） ＊短期留学がプラスされることが望ましい。
学習動機	中国に滞在（駐在）する際に、日常生活にはほぼ困らないレベルになりたい。 到達のポイント 中級レベルの「話す」・「聞く」を主として達成
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（会話の授業と講読の授業をそれぞれ週1コマ以上） ＊短期留学がプラスされるならばより効果的。 ＊2年次終了までに到達したレベルを維持・向上させるため、3、4年次にも引き続き、上級（会話の授業を主に、1年あたり週1コマ以上）を履修することが必要。
学習動機	卒業論文やレポート作成のために中国語の新聞・雑誌記事を活用したい場合。 到達のポイント 中級レベルの「読む」を主として達成
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（講読の授業を中心に、週2コマ以上）
学習動機	卒業論文やレポート作成のために中国語の新聞・雑誌記事に加え学術論文を活用したい場合 到達のポイント 上級レベルの「読む」を主として達成
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（講読の授業を中心に、週2コマ以上） 3～4年次 ▶ 上級（講読中心の授業を1年あたり週1コマ以上）
学習動機	中国を（バック旅行でなく）個人旅行したい。／将来、中国語の学習が必要になった時に自習できるレベルにしておきたい。 到達のポイント 初級レベルを達成
効果的な履修モデル	1 年 次 ▶ 初級クラス授業（週2コマ1年） 2 年 次 ▶ 中級（講読の授業を中心に、週1コマ以上）

5

ロシア語

ロシア語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) ロシア語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	ロシア語の文字と発音を正しく理解し、基本的文法事項や語彙の学習を通して、ロシア語の基礎学力を身に付ける。 1▶ アクセントを判断して正しく読み上げることができる。 2▶ 基本的なロシア語文を聴き取って正しく書くことができる。 3▶ 辞書を円滑に活用することができる。 4▶ ロシア語による簡単な自己紹介程度の聴き取り、作文、会話ができるようになる。 5▶ パソコンを活用して、ロシア語の入力やインターネットでの簡単な検索ができるようになる。	400	ロシア語能力検定4級： 文字と発音、格変化、動詞の時制、日常的な内容の文章を日本語にする、やさしい日常表現をロシア語にする、力点のあるロシア語テキストを読み上げる
中級	ロシア語をより高いレベルで活用するために、名詞格変化への理解を深め、ロシア語動詞の用法を詳しく学習する。それによって、さまざまなトピックのロシア語文を読んだり、自分で表現できるようになる。 1▶ ロシア語に独特な文法特徴を理解し、それらを用いた表現ができる。 2▶ 簡単な複文の構築法を習得し、それによってさまざまなトピックについて自分の考えをある程度表現できるようになる。 4▶ 辞書を利用すれば、インターネットによって配信されるロシア語のニュースなどについて、その概要が理解できるようになる。 7▶ ロシアを旅行した際に、基本的な意思疎通が可能になる。簡単な手紙やメール文を書くことができるようになる。	800	ロシア語能力検定3級～2級： 数詞（主格）、比較級・最上級、移動の動詞、関係代名詞の一部など、平易な文の日本語訳、日常生活で使うやや長い表現のロシア語訳、ゆっくりとしたテンポのロシア語テキストの聴取、力点のないロシア語テキストを読み上げる、与えられた身近なテーマで話を展開する、一般向けの読み物や新聞・雑誌記事などを訳す。
上級	より専門的なロシア語テキストの内容を理解し、さまざまなトピックについてロシア語で意見を述べたり、対話したりできるようになる。そうした運用能力の獲得により、ロシアの歴史、文化に対する理解を深める。 1▶ ロシア語のいろいろなスタイルについて理解が深まり、さまざまなジャンルの文を読みこなしたり、表現ができるようになる。 2▶ 大学院などの専門的な研究において、ロシア語をある程度活用し、新しい情報を得たり、知見を深めたりすることができる。 3▶ ロシアの歴史・文化、現代社会の様子などについて、ロシア語によってさまざまな情報が検索できる。 4▶ 雑誌の評論やテレビのニュース番組などについて、だいたいの内容が理解できるようになる。 5▶ ロシア語能力を生かして、自分なりのロシア旅行を計画し、実行することができる	2000	ロシア語能力検定2級～1級： 日常会話レベルの話が理解できる、さまざまな分野の事柄を平易なロシア語に訳す、すべての文法事項のチェック、さまざまな分野の文章を訳す、一般教育の範囲内のやや高度な内容の事柄を正確なロシア語に訳す、ノーマルスピードでやや高度な話も理解できる、与えられたテーマでロシア語を話す。

(2) ロシア語履修案内

学習動機	日本ではあまり触れることのないロシア語がどんな言葉なのか勉強してみたい。 できればロシア人と話したり、ロシアに行ったりしてみたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 初級クラス授業+初級 B1 コマ履修 2 年 次▶ 中級2コマ以上を履修(日本人担当1コマ+ネイティブ担当1コマなど)
学習動機	ロシア語を専門にするわけではないが、将来就職した際に何らかの形で役立てたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 初級クラス授業+初級 B1 コマ履修 2 年 次▶ 中級3コマ履修(日本人担当2コマ+ネイティブ担当1コマなど) 3 年 次▶ 上級1コマ以上履修
学習動機	大学院進学や、長期留学を希望し、専門的にロシア語を活用していきたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 初級クラス授業+初級 B1 コマ履修 2 年 次▶ 中級3コマ履修 3～4年次▶ 上級2コマ履修、ロシア語を扱う共通ゼミを選択することも可
学習動機	スラヴの歴史や文化に興味があり、いろいろな情報に直接触れたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 初級クラス授業、言文科目1コマ履修(スラブ研究入門) 2 年 次▶ 中級1コマ以上を履修、 言文科目2コマ履修(ロシア・東欧文学、世界の言語入門・セルビア語など)

「ロシア語教室」ホームページもご覧ください。▶ http://www.soc.hit-u.ac.jp/~ynakajima/jugyouHP/russian_top.html

初修外国語のすすめ (3)

■新しい出会いのために……

皆さんがこれから優秀な学生として、また将来有能な職業人あるいは研究者として、さらには豊かな教養を備えた魅力的な人物として、育っていくために必要なことは何でしょうか？ 誰か権威ある人の意見をたくさんおぼえて、それをオウムのように繰り返すことでしょうか？ むしろ、現実を自分の頭で考え、判断して、自分の言葉で語ることができる、ということではないでしょうか？

しかし、このような力（感性と理性、言語表現能力）は、誰であれ生得的に備わっているものでも、また自然に育ってくるものでもありません。もっとも広い意味での他者との数多くの出会いを通して、驚き、傷つき、感動し、反発し、共感し、批判し、自己を振り返って反省し……という体験を通して培われるものです。そして、そのような喜ばしくもまた苦しい体験を与えてくれる他者は、もちろん現実に目の前にいる他者でもあるのですが、またもっとも多くの場合には、外国語を通して触れることのできる、異なる文化それ自体なのです。自国語＝自文化のそれとは異なる言語的＝文化的視点に基づいて、様々な他者に深い共感を寄せ、異文化を柔軟に受け入れることができる知性と感性があつてこそ、独自のものの見方や考え方、豊かで斬新な発想、人間的な深みや知の幅広さは獲得されます。そのときにこそ皆さんは、外国語が開いてくれる真の「素晴らしさ」を知ることになるでしょう。（終）

6

朝鮮語

朝鮮語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) 朝鮮語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	ハングルが正確に読めるようになり、簡単な文章を書いたり聞いたりできるようになる。また、決まり文句としての挨拶などが自然に出てくるようになる。 さらに、言葉だけでなく、学習の一環として使われる映画や音楽などを通して、隣国の文化になじむ。 読む ▶ 日常生活の中に出てくる簡単な文章を辞書をひいて読めるようになる。 書く ▶ 限られた文型をもちいて、メールなどを書けるようになる。 話す・聞く ▶ 自己紹介ができて、旅行したときに困らない程度のやりとり（買い物や注文）ができるようになる。	450	ハングル能力検定4～5級 韓国語能力試験1級
中級	基礎文法が終わり朝鮮語の構造がおおよそつかめるようになる。そのうえで、さまざまな文型や語尾をもちいて、少しこみいったやりとりができるようになる。この段階にはいと理解のスピードが増すため、やる気のある人はどんどん伸びるようになる。 似ているといわれる日本語とは微妙に異なる表現のおもしろさに気づいたり、ハングルで書かれた新聞や雑誌の記事を継続して読んでいくなかで、外から見た日本の姿に触れる。 読む ▶ 辞書をひいて新聞の記事や学術論文を読めるようになる。 書く ▶ 手紙や簡単なレポートを書くことができる。 話す・聞く ▶ 自分が言いたいことをおおよそ伝えることができるようになる。また簡単な内容で、相手がゆっくり話せば大意をつかむことができる。	1000	ハングル能力検定3級 韓国語能力試験2級
上級	朝鮮語文法に十分に習熟し、多様な状況に応じて活用できるようになる。朝鮮語は構造上日本語に最も似ている言語とはいえ、受身や敬語の使い方など非常に異なる点もある。その相違を理解し使いこなせるようになる。また朝鮮語の語彙には漢字が多いが、漢字の読み方は基本的には一つしかないので、漢字語の読み方を覚え専門用語の語彙を増やす。 読む ▶ 新聞・インターネットの記事や専門的書物も辞書を用いて、比較的容易に読めるようになる。 書く ▶ 朝鮮語の特徴を活かしつつ、手紙や、やや専門分野のレポートを書くことができる。 話す・聞く ▶ 相手がゆっくり話せば場面に合った内容や表現で質疑応答などのコミュニケーションがとれる。また韓国への留学や長期滞在に備えて日常生活や大学の授業についていけるようにする。	2000	ハングル能力検定準2級 韓国語能力試験3級

(2) 朝鮮語履修案内

学習動機	将来仕事で朝鮮語を使いたい（プロの通訳、翻訳家以外）。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 朝鮮語初級（異なる教員の授業を週2コマ1年） 2 年 次▶ 朝鮮語中級（週2コマ） 3～4年次▶ 上級（週1コマ）+長期（1年間）留学
学習動機	大学院進学、研究者として朝鮮語を使用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 朝鮮語初級（異なる教員の授業を週2コマ1年） 2 年 次▶ 朝鮮語中級（週2コマ） 3～4年次▶ 上級（週1コマ）
学習動機	韓国に滞在（駐在）する際に、日常生活にはほぼ困らないレベルになりたい。（商談はできない）
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 朝鮮語初級（週2コマ1年） 2 年 次▶ 朝鮮語中級（会話の授業と講読の授業をそれぞれ週1コマ以上） ＊短期留学がプラスされるならばより効果的。 ＊2年次終了までに到達したレベルを維持・向上させるため、3,4年次にも引き続き、上級（会話の授業を主に、1年あたり週1コマ以上）を履修することが必要。
学習動機	卒業論文やレポートの作成のために 朝鮮語の文献を活用したい場合。 到達のポイント 中級レベルの「読む」を主として達成
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 朝鮮語初級（週1コマ1年） 2 年 次▶ 朝鮮語中級（週2コマ）
学習動機	韓国を（バック旅行ではなく）個人旅行したい。／ 将来、朝鮮語の学習が必要になった時に自習できるレベルにしておきたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ 朝鮮語初級（週1コマ1年） 2 年 次▶ 朝鮮語中級（週1コマ）

7

スペイン語

スペイン語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) スペイン語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	○スペイン語の基礎的な文法事項・語彙を習得する。 ○動詞の時制は、直説法現在を中心に、現在完了・完了過去・完了過去までを目標とする。 ○スペイン語圏の社会・歴史・文化等について理解を深める（視聴覚資料を適宜使用）。 読む▶ 直説法の範囲ならば、辞書を参照することによって、大意をつかむことができる。 書く▶ 辞書や教科書を参照しつつ、直説法の範囲で、簡単な自己紹介や説明を行うことができる。 話す・聞く▶ 定型的な表現を用いて、簡単な自己紹介や旅行で最低限困らない程度の会話ができる。	1000	スペイン語 技能検定 5級程度
中級	○スペイン語の初級文法全体の学習を目標とする。 ○文法事項は、直説法各時制の復習に加え、接続法現在・命令・未来・過去未来までを学習する。 ○スペイン語圏の社会・歴史・文化等について、さらに理解を深める。 読む▶ 辞書を参照することにより、新聞記事などの大意をつかむことができる。 書く▶ 辞書や教科書を参照しつつ、直訳的であっても意味の通じるスペイン語で、簡単な通信や説明を行うことができる。 話す・聞く▶ 定型的な表現だけでなく、習得した文法規則と語彙を組み合わせながら、意思の疎通を試みることができる。旅行を楽しむ程度の会話ができる。	2000	スペイン語 技能検定 4級程度

(2) スペイン語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野に入れ、専門的な研究でスペイン語を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ スペイン語初級（通年）1科目（日本人教員、ネイティブ教員の授業各1）履修。 2 年 次▶ スペイン語中級、夏学期・冬学期各1科目（日本人、ネイティブ教員の授業各1）を履修。
学習動機	専門的な研究には従事しないが、将来社会にでてビジネスなどでスペイン語を活用したいので、大学で基礎をしっかりと身につけておきたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ スペイン語初級（通年）1科目（日本人教員、ネイティブ教員の授業各1）履修。 2 年 次▶ スペイン語中級を1科目、スペイン語圏地域文化論（中南米・スペイン）を履修。
学習動機	スペインや中南米の文化に大変興味があり、スペイン語の学習を通して興味を深めたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ スペイン語初級（通年）1科目、スペイン語圏地域文化論（中南米・スペイン）を履修。 2 年 次▶ スペイン語中級を1科目履修。

8

アラビア語

アラビア語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

(1) アラビア語学修の目安

	到達のポイント	習得する 語彙数の目安	資格検定などで 対応するレベル
初級	アラビア語のアルファベットの読み方と書き方、基本的な文法や語彙を習得する。また日本語や英語との対照から、アラビア語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるアラブ的な発想、思考、価値観、文化のありようを理解する。 読む▶ アラビア語のアルファベットを読めるようになる。基本的な文型を用いたごく簡単な内容の文章を読めるようになる。 書く▶ アラビア語のアルファベットを書けるようになる。学習した基本的文法や語彙を用いてごく簡単な内容の文章を書けるようになる。 話す・聞く▶ ごく簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手がごく簡単な内容をゆっくり話す場合であれば理解できるようになる。	300	
中級	初級の学習内容を補完し（動詞の派生形など）、それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。アラビア語圏の文化、社会、歴史についての知識と理解を深める。 読む▶ 辞書を用いて日常・社会生活のテーマに関する簡単な内容の文章を読解できるようになる。 書く▶ 辞書や参考書の助けを借りれば、簡単な内容のやや長めの文章を書けるようになる。 話す・聞く▶ アラビア語圏の国々に旅行した際に、簡単な意思疎通ができる。	600	

(2) アラビア語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野に入れ、専門（研究・仕事）でアラビア語を活用したい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ アラビア語初級（通年）1コマを履修。 2 年 次▶ アラビア語中級を夏学期・冬学期ともに各1コマ履修。
学習動機	将来アラビア語を専門的に用いるか分らないが、アラビア語には大変興味があり、基礎をしっかりと身につけておきたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ アラビア語初級（通年）1コマを履修。 2 年 次▶ アラビア語中級1コマを夏学期に履修。
学習動機	アラビア語を専門的に用いることはないが、アラビア語がどのような言葉であるかを理解してアラブ文化への関心を高めたい。
効果的な履修モデル	1 年 次▶ アラビア語初級（通年）1コマを履修。

9

日本語

日本語科目の学修の目安（到達のポイント）

(1) 日本語学修の目安

レベル	中 級	上 級 ・ 前	上 級 ・ 後
聴解	普段大学等で出会うような身近な話題について、明確で標準的な話し方の会話なら、要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているのなら、時事問題や個人的、専門上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点が理解できる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題が自分の専門であれば、議論の流れが複雑であってもおおよそ理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組がわかる。	たとえ、構成がはっきりせず、関係性が明示されていないでも、長い話が理解できる。特別な努力なしにテレビや映画がほとんど理解できる。
読解	非常によく使われる日常言語や、自分の専門関連のテキストならおおよそ理解できる。辞書を使えば大学の履修案内、図書館利用案内などが理解できる。	現代の問題について著者の立場が明確な記事や報告が読める。さらに、ある程度の量を速読し、内容をつかむことができる。	専門書・資料等を講読し、内容をつかむことができる。長い複雑な事実にもとづくテキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の専門外の専門的記事も理解できる。
口頭表現：やりとり	家族や趣味、勉強、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	流暢に自然に会話することができ、母語話者と普通にやりとりすることができる。身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明したり、的確に質問できる。	言葉をことさらに捜さずに流暢に自然に表現できる。社会上、勉学上の目的に合った言葉遣い（敬語を含む）ができる。また、自分の考えや意見を明確に表現でき、自分の発言を上手にほかの話し手の発言にあわせることができる。
口頭表現：発表	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望などを語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	自分の興味関心のある分野に関する限り、適切な語彙や表現を選んで説明をすることができる。時事問題についていろいろな可能性の長所、短所を示して、自分の見方を説明できる。	文脈に合った適切な語彙や表現を選んで、詳しく論じ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
文章表現	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。また、必要な事項を簡条書きにできる。	自分の興味関心のある分野に関する限り、適切な語彙や表現を選んで詳細な説明文を書くことができる。レポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。また、講義を聴きながら大まかな内容についてノートをとることができる。	いくつかの視点を示して、明確な構成で表現ができる。自分が重要だと思う点を強調しながら、レポート等で複雑な主題を扱うことができる。読み手を念頭に置いて、適切な文体が選択できる。また、講義を聴きながら内容について適切にノートをとることができる。

この表の作成にあたっては、CEFR（Common European Framework）のレベル分け等を参考にしています。

(2) 日本語履修案内

毎学期はじめに行われるプレイスメントテストの結果によってレベルが決まります。以下の、レベルごとに割り振られた授業科目から、自分に足りない、あるいは必要と思われる科目を選んで履修してください。

日本語の授業一覧（レベル別対応表）

【表1】

レベル	選択科目
日本語中級・中	文章表現入門、口頭表現入門、中級読解Ⅰ、文法Ⅰ、社会科学の基礎語彙、漢字CAI
日本語中級・後	文章表現Ⅰ、文法Ⅱ、口頭表現Ⅰ、中級読解Ⅱ、社会科学の基礎語彙、漢字CAI
日本語上級・前	文章表現Ⅱ、文法Ⅱ、口頭表現Ⅱ、上級読解Ⅰ、経済の日本語Ⅰ、社会・人文の日本語Ⅰ
日本語上級・後	文章表現Ⅲ、速読、口頭表現Ⅲ、翻訳、経済の日本語Ⅱ、経済専門文献日本語、社会人文の日本語Ⅱ、法の日本語、近代文語文講読

【表2】

選択科目（日本語選択）	中級・中	中級・後	上級・前	上級・後	夏	冬	授業区分
文章表現入門（書く）	○	×	×	×	○	×	全学共通教育科目
文章表現Ⅰ（書く）	×	○	×	×	○	○	全学共通教育科目
文章表現Ⅱ（書く）	×	×	○	×	○	○	全学共通教育科目
文章表現Ⅲ（書く）	×	×	×	○	○	○	全学共通教育科目
文法Ⅰ（文法）	○	×	×	×	×	○	全学共通教育科目
文法Ⅱ（文法）	×	○	○	×	○	○	全学共通教育科目
口頭表現入門	○	×	×	×	○	×	全学共通教育科目
口頭表現Ⅰ（話す・聞く）	×	○	×	×	○	○	全学共通教育科目
口頭表現Ⅱ（話す・聞く）	×	×	○	×	○	○	全学共通教育科目
口頭表現Ⅲ（話す・聞く）	×	×	×	○	○	○	全学共通教育科目
中級読解Ⅰ（読む）	○	×	×	×	×	○	全学共通教育科目
中級読解Ⅱ（読む）	×	○	×	×	○	○	全学共通教育科目
上級読解Ⅰ（読む）	×	×	○	×	○	○	全学共通教育科目
速読（読む）	×	×	×	○	○	○	全学共通教育科目
翻訳	×	×	×	○	○	○	全学共通教育科目
社会科学の基礎語彙（語彙）	○	○	×	×	○	○	全学共通教育科目
漢字CAI	○	○	×	×	○	×	全学共通教育科目
近代文語文講読（読む）	×	×	×	○	○	○	全学共通教育科目
経済の日本語Ⅰ（読む・語彙）	×	△	○	×	○	○	学部教育科目
経済の日本語Ⅱ（読む・語彙）	×	×	×	○	○	○	学部教育科目
社会・人文の日本語Ⅰ（読む）	×	△	○	×	○	×	学部教育科目
社会・人文の日本語Ⅱ（読む）	×	×	×	○	×	○	学部教育科目
法の日本語	×	×	×	○	○	×	学部教育科目
経済専門文献日本語	×	×	△	○	○	○	大学院科目

○：受講できる △：担当教員の許可があれば受講できる ×：受講できない

3. 数理・自然基礎科目の目的と到達のポイント、学習動機別

1 数理情報科目

(1) 数理情報科目学修の目安

数理情報の基礎および発展科目は、学生が将来どの分野に進むにしても、その分野における数理科学的概念や手法を理解するために欠かせない基礎的な性格を持つ科目群であり、特に「外国語・数理情報科目」として数理情報基礎科目は、選択必修になっています。

なかでも、線型代数のIA、IB、微分積分のIA、IB、は最も基礎的な科目ですが、まずIAとIBの違いについて述べます。IAはIBに比べて範囲を少ししぼり、進度もゆっくりめで社会科学を学ぶためないし教養としての数学を学ぶための最も基本的な部分に関する授業です。

一方、IBはIAに比べて扱う範囲が少し広がりその分進度も早く、さらにⅡ、統論、その他の数学の授業を続けてとるための科目だと言えます。また、IAの履修者でも、その範囲をよく理解しているのであれば、IAのあと、続けてⅡを履修することは可能です。また、よくある質問ですが、数Ⅲ、数Cの知識はIA、IBのどちらに対しても必要なく、授業のなかでその範囲のことも含め（線型代数Ⅰで数Cの部分、微分積分Ⅰで数Ⅲの部分）を勉強します。また、一橋大学は社会科学系の大学ですが、伝統的に数理科目を重視しており、数理科目が得意な学生がたくさん入学しています。そのような学生は、将来学部の特門に行っても数理科目で得られた知識、論理能力を生かしさらに発展させることが期待されます。たとえば、将来、経済理論（ミクロ、マクロ）、統計・ファイナンス、ゲーム理論、情報数理、金融工学、保険数理などでは数学を言語のように用い多用するので、これらの専門に進みたい学生には、共通科目の数学の授業を積極的に履修することを勧めます。これらのゼミに進みたい学生は最低でも微分積分Ⅰ、Ⅱ、線型代数Ⅰ、Ⅱが必要で、できれば集合と位相、確率や数理発展科目なども受講しておきたいところです。

情報関係の基礎科目には、コンピュータの扱い方から情報科学の初歩までを学ぶ情報基礎と、それよりやや進んだ内容を取り扱う計算機概論とがあります。まず、情報基礎を履修し、次に計算機概論を履修するのが標準的な履修の順序です。さらに進んで共通発展科目の情報数学A、B、各学部の計算機・情報関連科目を履修しようとする学生は、情報基礎に続けて計算機概論を受講することを強く勧めます。

また教職科目と経済学部の授業としての数学科目をとれば、数学の教員免許も取得できます。また経済以外の学部でも、上記の科目をとれば数学の教員免許は取得可能です。

(2) 数理情報科目の紹介

線型代数IA	線型代数IB
線型代数についての入門的な講義を行う。行列の定義・演算、掃き出し法による連立方程式の解き方、逆行列、行列式、空間における直線・平面の方程式などが講義内容で、すべて基本的なものにとどめ、やさしく講義する。	線型代数についての入門的な講義を行う。行列の定義・演算、掃き出し法による連立方程式の解き方、行列の階数、逆行列、行列式の定義と基本的計算、空間における直線・平面の方程式、外積、行列式の幾何学的意味 などが講義内容である。将来の専門を意識し、IAに比べ若干発展的な内容のものについても触れる。
微分積分IA	微分積分IB
微分積分の入門的な講義を行う。高校数学の復習から始まり、極限、微分計算とその応用（接線、グラフ、極値、テラー展開の初歩）、積分計算とその応用（面積、体積）が主要内容である。すべて基本的な題材にとどめ、できるだけやさしく講義する。	微分積分の入門的な講義を行う。高校数学の知識を前提とし、極限、微分計算とその応用、テラー展開、積分計算とその応用などについて講義をするが、将来の専門を意識し、IAに比べ若干発展的な内容のものについても触れる。
線型代数Ⅱ	微分積分Ⅱ
「線型代数Ⅰ」の続きとして、線型空間（ベクトル空間）、1次独立・従属、基底、次元、線型写像（階数、退化次数）、表現行列、基底の取替え、固有値・固有ベクトル、対角化、内積空間、グラム・シュミットの直交化、実対称行列の直交行列による対角化、(教員によって時間があれば、2次曲線・曲面) などが講義内容である。	微分積分に関する発展的な講義である。主に多変数の微分積分を扱う。偏微分の定義と計算、接平面、2変数のテラー展開、極値問題（条件なし、ラグランジュも含む）、2重積分の定義と計算、変数変換(教員によっては極座標変換のみ)による2重積分の計算、表面積や体積の計算、また教員によってはガンマ関数、ベータ関数などが講義内容である。

履修モデル

集合と位相Ⅰ		集合と位相Ⅱ
まず、集合の基本的概念を学ぶ。ここで集合の演算、写像等の数学を記述するのに便利な記号を学ぶことになる。次に集合の濃度の理論、無限集合の大きさについて学ぶ。最後には、教員によっては順序集合の基礎理論や選択公理などのやや発展的内容についても触れる。本講義は計算力より論理的思考能力を重視する。		平面または空間内の点の集まりを点集合というが、点集合の位相的性質の関する講義である。計算よりも論理論証能力が問われる授業でもある。
確率	情報基礎	計算機概論
確率についての入門的講義である。まず高校数学における確率を復習しそのうえで確率分布・確率変数・期待値・分散など、確率論の基本的な用語の解説から始め、様々な確率分布（2項分布、指数分布、正規分布など）や極限定理（大数の法則、中心極限定理）について説明していく。微分積分Ⅰ程度の微積分の予備知識は必要である。	パソコンの基本的な利用法を身につけ、コンピュータに関する知識や技術を再構築する。ネットワークの仕組みやコンピュータの動作原理の学習を通して、「情報科学」の基本概念を理解する。また、ネットワーク社会で求められる情報倫理の習得や、情報メディアの活用、情報コミュニケーション、初歩的なプログラミングの考え方等を中心に学ぶ。講義形式ではなく、情報教育棟において、毎時間与えられた課題に取り組む実習形式で授業が行われる。	コンピュータを有効に活用するにあたって、その動作の基本概念を理解しておく事は有用である。本講義では、プログラミング（コンピュータに処理の詳細を指示すること）を通して、計算機の原理や動作について基礎的な理解を得るとともに、簡単なプログラミングができるようになることを目的とする。その中で、オブジェクト指向等の最近の情報科学の成果についても学ぶ。講義形式ではなく、情報教育棟において、毎時間与えられた課題に取り組む実習形式で授業が行われる。

以下は発展科目の紹介である。

線型代数統論	微分積分統論
線型代数学の中級（有限次元線型空間論）への入門を取り扱う。抽象的な線型空間とその具体例の理解。有限次元線型空間の次元に関する基本定理、線型空間の基底とその取り替え、基底の取り替えと線型写像・変換の行列表現の正確な理解を目標とする。	微分積分Ⅰ、Ⅱに続く微分積分学の統編。微分、積分においては、極限の概念が基本的かつ本質的であるが、それは実数の公理の上に築かれている。この講義では、極限の定義を見直して、級数の収束、発散、べき級数、複素数冪級数の理論を中心に学ぶ。
数理論理学Ⅰ	計画数学Ⅰ
現代の社会科学においては、数学的素養が語学能力と同等かそれ以上に必要となっている。数学は、言語的部分（数理論理）と数学そのものを発見する手法（解析・代数・幾何ほか）によって構成されている。本講義では、通常の数学の授業とは異なり、数学の言語的部分のみにフォーカスを当てる。数学の文法（構文・時制）・和文数訳・数文和訳・数学の作文などを通じ、科学のユニバーサルな言語である数学の記述手法および読解方法を学ぶ。	数理計画法を学ぶ。不等式制約下で目的関数の最大値もしくは最小値を考える問題である。前半では線型計画法（目的関数や制約式が全て線型であるような問題）、後半では非線型計画法について解説する。 1. 線型計画法に関しては、単体法（シンプレックス法）や双対定理など基本事項を、例題も使って説明する。 2. 非線型計画法に関しては、有名な Kuhn-Tucker（キューン・タッカー）条件の成立理由や使い方について説明する。

(3) 数学履修案内

学習動機	教養として数学を履修する学生
効果的な履修モデル	1～2年次▶ 線型代数ⅠA、微分積分ⅠA
学習動機	数学を必要とする学生
効果的な履修モデル	1～2年次▶ 線型代数ⅠB、微分積分ⅠB、線型代数Ⅱ、微分積分Ⅱ、(集合と位相Ⅰ、確率)
学習動機	数学の基礎学力をしっかりつけ 専門で数学を多用しようとする学生
効果的な履修モデル	1年夏学期▶ 線型代数ⅠB、微分積分ⅠB 1年冬学期▶ 線型代数Ⅱ、微分積分Ⅱ、確率 1～2年次▶ 集合と位相Ⅰ、Ⅱ 2年次▶ 共通発展科目(線型代数統論、微分積分統論、計画数学、数理論理学)や学部科目

2

自然科学

自然科学の基礎科目は、大学受験学問から脱却して、自然科学の知の枠組みへのアプローチ、導入を試みる科目です。さらに知の枠組みや方法論を深めたいと考える学生には発展科目を通じ多くの学習機会を提供しています。

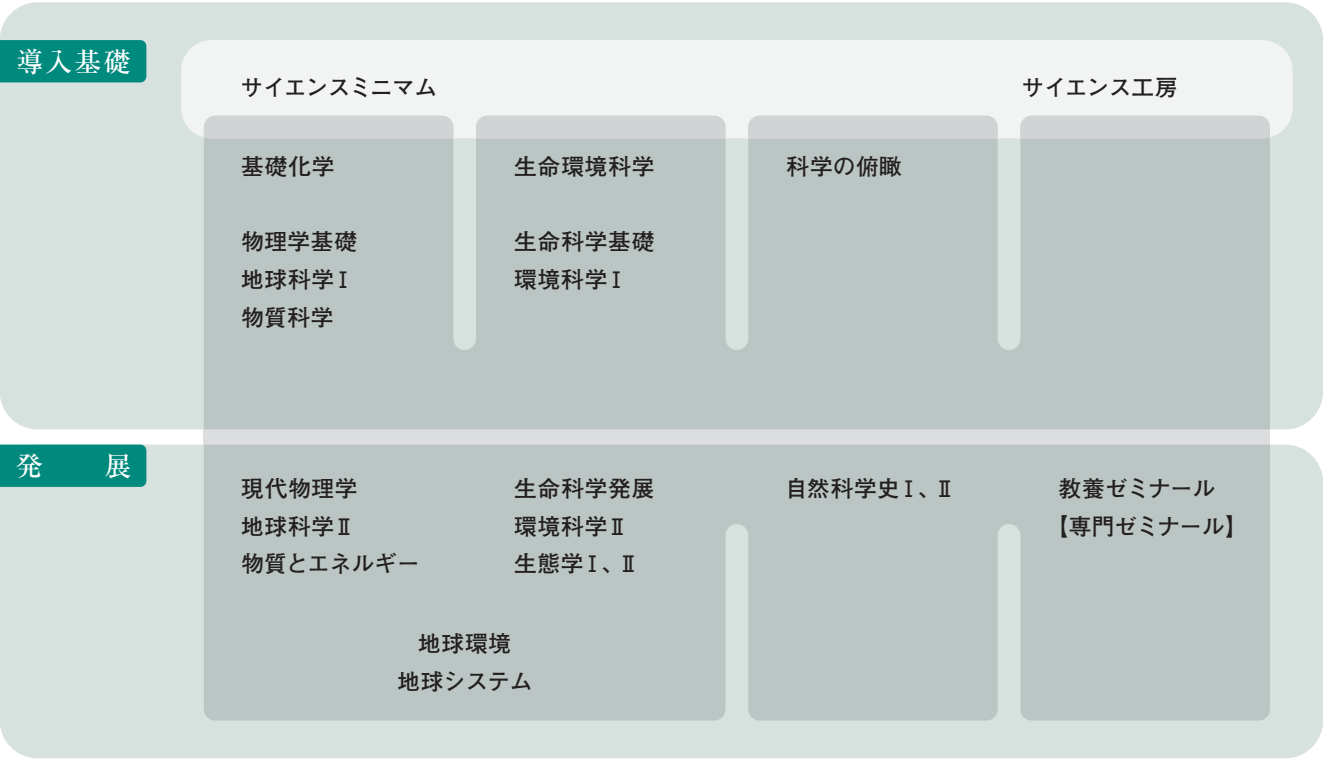
(1) 自然科学履修の目安

本学で提供される現代自然科学の基礎科目である「物理学」、「化学」、「生物学」、「地球科学」、「環境科学」分野を集約した科目として、サイエンスミニマムを提供しています。この科目を履修することで自然科学の姿を俯瞰することができます。またこの5分野の科目はそれぞれ独立した形で基礎科目群として提供しています。サイエンスミニマム・基礎科目で学んだ知識を、基本的な実験と講義を通して体得する科目としてサイエンス工房を開講しています。さらなる学問の涵養を目指す学生には、発展科目群を用意しています。なかでも、少人数で実験などの知的体験学習の色合いを濃くした教養ゼミナールを、それぞれの基礎科目分野に対応して夏学期・冬学期ともに開講しています。加えて、自然科学の知をさらに押し広げるために、地球環境、動物生態、自然科学史などの科目を用意しています。提供される科目は、以下のようにそれぞれの科目が関連しながら、基礎から発展までをカバーしています。

(2) 履修案内

教養としての幅広い科学的基礎知識や思考法を身につけるために、様々な基礎科学を用意しています。また基礎知識の体験的学習を行えるよう実践的(実験、実習を含めた)講義を、教養ゼミで提供しています。さらに深化した科学知識を発展科目と、科学関連のサブゼミ、専門ゼミで提供しています。

■ 教養としての科学(導入)から幅広い知識と視点(発展)まで



4. 運動文化科目の目的と到達のポイント、学習動機別履修モデル

運動文化科目

(1) 運動文化科目学修の目安

現代社会の生活様式は、慢性的な運動不足を引き起こし、体力・健康不安を増大させています。また、スポーツの社会的、かつグローバルな広がり、スポーツが自己実現やコミュニケーション、人間らしい生き方の追求と深く関わるとともに、人と人を地球的な規模で結びつける文化であることを示しています。スポーツは、人間の身体的・文化的生存と社会の発展、世界の友好と平和に大きく貢献するものとして、その重要性を広く認められつつあります。その一方で、ドーピング・薬物汚染や勝利至上主義などスポーツをめぐる諸問題も存在しています。

運動文化科目では、これらのことをふまえ、入学後の学生の体力・健康の維持促進や技能の向上に留意しながら、健康やスポーツ・運動文化に関する科学的、総合的認識と高度な教養を身につけることを目標としており、この文化領域を主体的に享受できるような能力の育成を目指しています。誰にとっても身近な存在であるスポーツを社会科学的な視点から見ることで、それまでには見えてこなかったスポーツのあり様をとらえていきます。

運動文化科目は、「スポーツ方法I」「スポーツ方法II」「スポーツ科学・健康科学」の3つの柱から構成されています。

(※年度ごとの開講種目・科目は、必ずシラバス等で確認してください)

1 スポーツ方法I

基礎的な体力と、スポーツについての基礎的能力（技術認識、練習方法、技術習得、組織運営など）の養成、及びグループ活動を通しての人間関係の形成を目的としています。スポーツ方法Iは「選択必修」です。なお、健康上の理由で運動制限の必要がある学生についても、原則として各種目において対応します。（※詳細については『履修ルールブック』を参照してください）

【開講種目】
サッカー テニス バレーボール バasketボール バドミントン ソフトボール
ジャズダンス フライングディスク スポーツフィットネス

2 スポーツ方法II

スポーツ方法Iの目的を共有し、またより高度なスポーツ学習の機会を提供するとともに、新しい種目の導入などをふくめ、多様なスポーツ実技種目を開講します。同時に、該当種目が未経験な学生に対しては、基礎的な能力習得を目的としている授業も開講しています。すでに経験のある種目のみならず、未経験の種目にも挑戦して下さい。1～4年生は4年間にわたって自由に選択して履修することができます。

【開講種目】
サッカー／フットサル テニス バasketボール バドミントン ソフトボール
フライングディスク ジョギング&フィットネス ゴルフ 器械体操 剣道

3 スポーツ科学・健康科学

現代社会における健康やスポーツ・運動文化のあり方にかかわる問題を、さまざまな角度から取り上げます。1～4年生は4年間にわたって自由に選択して履修することができます。

【開講種目】（概要：Webシラバスから抜粋）

スポーツ文化	スポーツと映像文化	現代スポーツ論	地域社会とスポーツ
日本の社会や歴史の大きな流れの中から、あるいは外国との比較などによって、今までとちがった角度からスポーツをとらえ直す。	映像を「物語」ではなく「運動」という視点から見直していき、それがスポーツと結びつく必然性について考える。	現代社会における様々なスポーツの諸相をとりあげ、スポーツと社会のかかわりについて考えるてがかりを提供する。	日常生活の基盤である地域社会においてスポーツはどのような姿で現れているのか。さまざまな事象を取り上げ、歴史、現状、国際比較の視点から考察を加える。
現代社会とスポーツ	運動と体力の科学	ヒューマンセクソロジー	
グローバル化について、選手の海外での活躍だけではなくスポーツ・ビジネス、メディア・スポーツ、移民、ローカルアイデンティティ、再活性化する伝統スポーツ等について考える。	身体の生理学的特性を中心に、合理的に、科学的に運動することがどんなにカラダに良いかを考える。健康、安全をキーワードに確実にカラダに効くスポーツ理論をひもとく。	時代は男女両性の平等、共生、性の多様性の承認など大いに変化してきている。こうした中で青年期の性的教養を深め、自立した人間関係のもとでの確かな性と生のあり方を追求する。	

(2) 運動文化科目履修案内

	実技系科目	講義系科目		学部科目
4年	 スポーツ方法II スポーツ方法I			社会学部・発展科目 身体社会史 スポーツと社会過程 スポーツ問題の社会学
3年		 スポーツ科学・健康科学	教養ゼミ	商学部・発展科目 スポーツ・ビジネス論
2年				社会学部・基礎科目 スポーツ社会学の基礎
1年				

実技系科目の履修
ひとつの履修パターン▶ スポーツ方法Iの受講を基礎に2年次以降スポーツ方法IIを各学期に1コマ受講する。
【学習動機】▶▶ 運動・スポーツの機会を定期的に持つことで健康に資する。 ▶▶ 運動習慣の形成の基礎としての継続的な運動・スポーツの機会を得る。 ▶▶ 自らの身体に対する認識を深める。 ▶▶ 技術の高度化をはかる。 ▶▶ 未経験の種目にアクセス、チャレンジする。 ▶▶ スポーツの学習をとおして、多様な人々と交流し仲間をつくる。
講義系科目の履修
ひとつの履修パターン▶ 講義形式の授業を主に1年次から2年次にかけて受講する。
【学習動機】▶▶ 多面的な視点からスポーツを社会科学的に理解する。 ▶▶ 身体をめぐる多様な科学的認識を深める。
ひとつの履修パターン▶ 教養ゼミを1年次、2年次に受講する。
【学習動機】▶▶ スポーツを考察の入口として、社会科学的認識の基礎、ゼミナールにおける発表・討論の方法と意義等について学ぶ。
講義系科目の履修
主に講義系科目の受講とともに、社会学部では2年次以降、商学部では3年次以降に、それぞれ開講されているスポーツ関連科目・ゼミの受講につなげる。また、そこから共通教育へのフィードバックも可能である。

5. 現代GP「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」の取組と関連科目

キャリア形成支援

本学では、学生の皆さんのキャリア形成に資するために、様々な科目を提供するとともに多彩な支援活動を展開しています。これらは、体系的にあるいはその一部を科目履修し、さらに進んで支援活動に参加することによって、皆さんが卒業後も含めた自らのキャリア形成に関するイメージを明確に持ち、本学における学修計画および就職活動の参考になることを願って計画されています。

さらに、本学のこの取組は文部科学省平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおいて「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」として採択されました。取組の特徴と目的とする教育効果は以下の通りです。
(URL:<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~gp/>)

(1) 本取組の特徴

1▶ キャリア教育コア・プログラム（寄附講義）

業界の第一線で活躍する卒業生約150名を講師として組織し、少人数の対話式授業が産業別に展開される「キャリアゼミ」（年間約10ゼミ）、社会の今を伝え自らの実践経験を語る「社会実践論」、21世紀の男女共生社会における広い人生設計を構想する「男女共同参画時代のキャリアデザイン」を開講

2▶ キャリア教育関連科目

学部教育・教養教育の枠を超えて「キャリア教育関連科目群」を編成し、学生の体系的学修の促進する

3▶ キャリア形成支援活動

インターンシップ、就職セミナーなど「キャリア形成支援活動」のさらなる充実

4▶ キャリアデザイン委員会

学生の自主的組織「キャリアデザイン委員会」の活動支援・促進し、多彩なキャリア形成支援活動の展開する



(2) 4つの教育効果

- 1・2年次からのキャリア意識を高めることで、具体的な目標に向けた大学での学修を進めることができる。
- 大学での理論的学習と社会实践への接触を有機的に連携させることにより、深い洞察と現場感覚に根差した将来設計を考えられるようになる。
- 現実社会に触れることで、在学中に修得する専門的知識やスキルを、自己開発能力やコミュニケーション能力、対人対応力など社会におけるキャリア形成上必要な能力と有機的に結びつけられる。
- 大学における学修をキャリア形成の一環として捉えることで、全体的にキャリアデザインができるようになり、学修全体が充実したものになる。



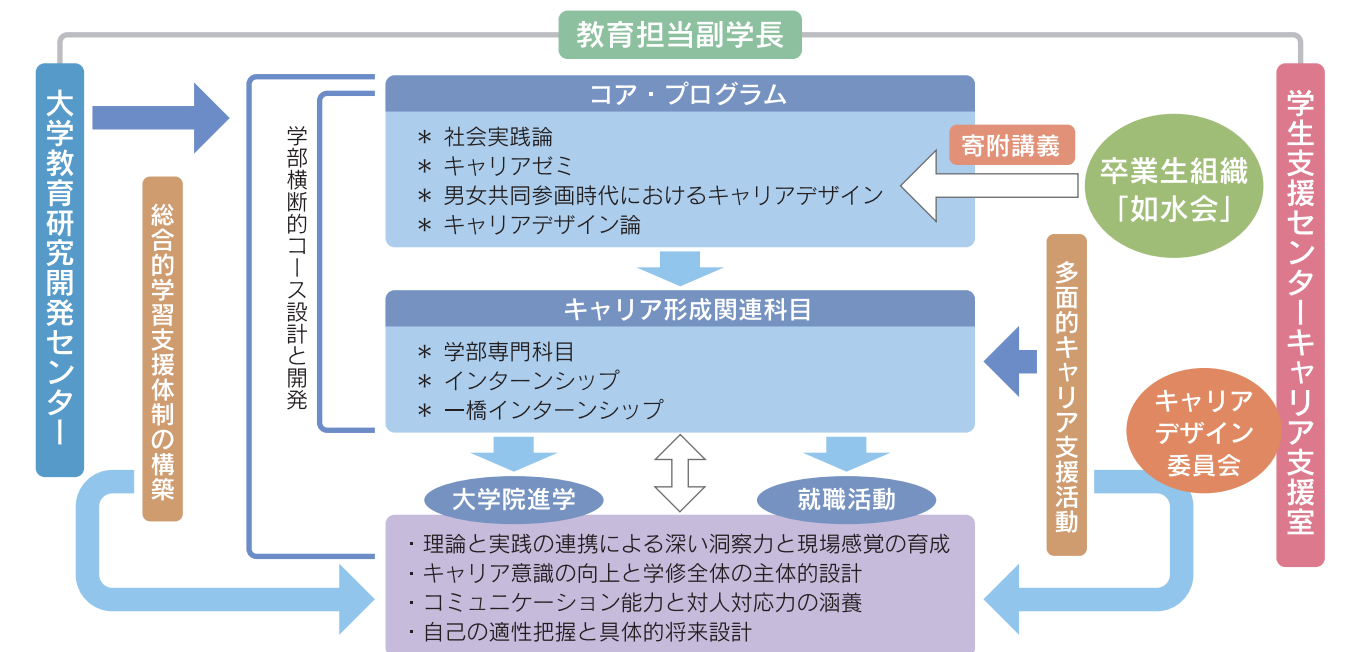
(3) 寄附講義によるコアプログラム構築とキャリア形成支援の枠組

一橋大学の教育理念

豊かな教育と市民的公共性を備えた、構想力のある専門人、理性ある革新者、指導力ある政治経済人の育成

教育の基本方針

- 1 対話と双方向の教育を基軸とした、自由で緊張感ある教育環境を育成し、発展させる
- 2 学生個々人の感性を磨き、理性を鍛え、創造性と論理性、構想力と判断力を養う



(4) キャリア形成にかかわる諸科目の紹介

■ 少人数のゼミで業界を掘り下げて学ぶ「キャリアゼミ」

「キャリアゼミ（通称：如水ゼミ）」は如水会の協力のもとに、学生の総合的キャリア形式支援教育の一環として開講されたものです。「ゼミの一橋」の伝統を活かし、産業界など第一線で活躍しているビジネスリーダーと学生との対話を中心としたゼミスタイルの双方向授業形式をとっているのが特徴です。如水ゼミの定員は各ゼミ10～15名と少数で、業種ごとに半年または通年で開設されます。具体的には、各業界のビジネスリーダーが自らの実務経験を通じて身につけた知識や技術、経営哲学などを学生に提示し、それを素材として対話します。学生がビジネスの実践的な理解を深め、卒業後の自分のイメージを構築して、目標に向けた具体的な学修を進めることを目標にしています。

■ 業界の動向を知り、学生生活の指針を先達から学ぶ「社会実践論」

如水会および一橋大学後援会の寄附により開設された、本学卒業生によるオムニバス方式の講義です。社会の第一線で活躍する一橋の先輩が、職業経験に裏打ちされた人生哲学や職業意識を伝授し、産業の現状を講義することで、学生の職業観を醸成し、これから専攻する専門分野への勉強意欲を鼓舞することを目的としています。夏・冬学期各12名の講師が、所属する業界がグローバルな市場経済社会においてどのような方向に進もうとしているのか、また、「若者はその産業界で何を期待されているのか」を中心に講義します。さらに各講師は、学生の将来の職業選択を軸に、「学生時代に何をしたか」、「社会に出てどういう転機があったのか」等自らの体験を交えて講義しています。



■ 「男女共同参画時代のキャリアデザイン」GenEP参照（P.32）

■ 就業経験からキャリア設計を考える「インターンシップ」

受講者が各種の企業・団体においてインターンとして短期間の就業経験を行うとともに、その前後の課題の実施を通じて、自らのキャリア設計について考える機会を提供します。
インターン先の企業・団体は、大学の教育目的を理解したうえで協力してくださっており、この授業は「教育の一環としてのインターン」として設計されていることが特徴です。参加する学生は事前準備を行い、インターン経験についてのレポートを作成することを通じて、卒業後の職種選択、キャリア設計について本格的に考えることが求められています。就職支援活動そのものではなく、学生のキャリア教育の一環として実施される授業です。



主な学生の受け入れ企業・団体名（順不同）

ミスミグループ本社、三菱電機、富士フィルム、東レ・ダウコーニング、東芝、新生銀行、旭化成、三井住友海上火災保険、大日インキ化学工場、日本製紙、リードエグジジョンジャパン、岡村製作所、曙ブレーキ工業、内田洋行、トクヤマ、ダイヤモンド・ピックアップドリード、ダイキン工業、トライアンフ、第一生命保険、山崎製パン、みずほ銀行、三井住友銀行、キッコーマン、富士通、日本製粉、みずほ総合研究所、大成建設、三菱東京UFJ銀行、ジャパンエナジー、日産化学工業、日本経済研究センター、フレッシュ・フード・サービス、セコム、資生堂、日清製粉グループ本社、NEC、日本生命保険、タキヒヨー、鹿島建設、国際交流基金、等

■ 「キャリアデザイン論」

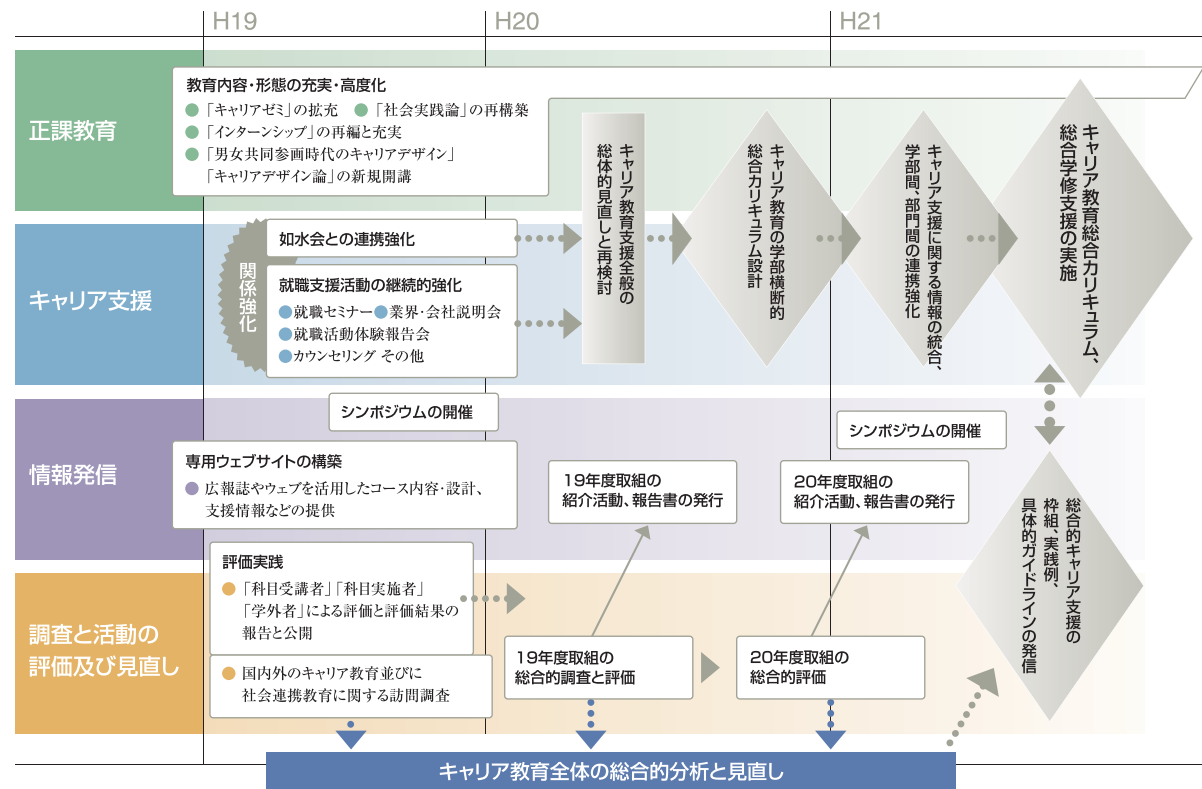
キャリアには「職業の経歴」という意味（キャリアの客観的側面）と「仕事に対する自己イメージ」という意味（キャリアの主観的側面）があります。そしてキャリアデザインには、仕事に対する自己イメージを形成し、適切に能力を高めながら、職業選択の意思決定を行っていく一連の主体的活動計画という意味があります。参加者には、この授業を通じて、キャリアというものを正しく理解し、キャリアデザインに対する意欲を喚起してほしいと願っています。
この授業は、レポート、診断、グループワーク、ディスカッションなどの手法を用いることで、授業への積極的な参加を求めます。またテキストについては、授業前に読んでいることを前提に授業を進めていきます。到達目標は、キャリア理論に関する正しい理解が得られること、そして将来に向けてキャリアデザインを進めていくスキルやスタンスが身に着くことです。また、「社会に出てから必要となる基礎力」が向上することも目的としています。就職のノウハウを教える授業ではありません。



■ 「一橋大学の歴史」

一橋大学の前身東京商科大学は明治8（1875）年に商法講習所として誕生しました。その歩みは決して平坦なものではなく、明治41・42（1908・1909）年の「申酉（しんゆう）事件」、昭和6（1931）年の「籠城事件」に代表されるように、いくたびか存亡の危機にさらされ、そのつど、学生・教員・卒業生が一丸となって母校を守り、今日の一橋大学を築いてきました。平成16（2004）年には国立大学法人となり、新たな歴史を刻み始めています。
授業では母校の歴史をまなび、身を賭して学園を守った諸先輩に感謝と敬意を表しつつ一橋大学に学ぶ意義をあらためて考える機会を提供します。あわせて本学と国立の町づくりとの関係もとりあげる予定です。

(5) 寄附講義によるコア・プログラムとキャリア形成支援構築のプロセス



(6) キャリア支援室

キャリア支援室では以下の4つを主な活動として、学生のキャリア形成を支援しています。

1 キャリア形成支援

正課科目「インターンシップ」の他に、就職支援のための「インターンシップ」（3年生および修士1年生、単位なし）を開設しています。如水会およびマーケッリー研究会の支援を受け、2006年度実績は参加学生約80名、学生受け入れ企業36社でした。

2 進路・就職相談

進路・就職に関する学生の疑問や悩み等について対応しています。

3 就職ガイダンス&就職セミナー等の実施

就職活動が円滑に進むよう、就職に関する数多くのガイダンス・セミナー等を実施しています。

4 就職情報・資料等の提供

検索用パソコン、求人票、企業・業界等に関する関係資料、卒業生名簿等を取り揃え、サービスを提供しています。

(7) 多彩なキャリア支援事業

1 「インターンシップ」

多業種にわたる企業に依頼し、一橋の学生向けに独自のプログラムを提供していただく少数精鋭のインターンシップ・プログラム。夏休み期間中のインターンを挟んで事前事後の研修を専任の教員が行い、2年生には2単位の授業として提供しています。

2 「進路・就職相談」

専任のキャリア・アドバイザーが、学生の進路・就職など具体的な相談に応じています。

3 「就職ガイダンス」

10月上旬、就職を希望するすべての3年生・修士1年生向けに就職活動へのオリエンテーションを行います。その後1月まで毎週会社説明会を行います（約300社）。

4 「各種セミナー」

今産業界が直面している諸問題からテーマを選び、その専門家に講演を依頼し、問題関心を広める催しを提供しています。

5 学生自主組織「キャリア・デザイン委員会」の支援

学生が自分たちの目線から様々なキャリア・セミナーやプログラムを企画しており、その活動を支援しています。

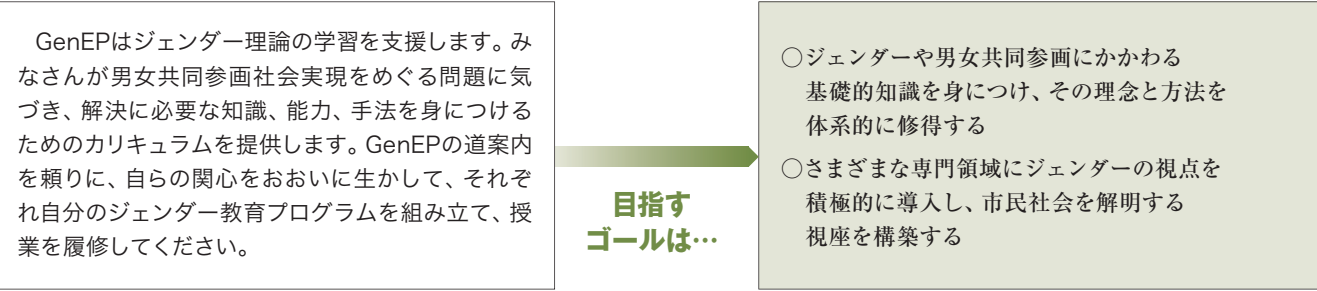
6. ジェンダー教育プログラム (GenEP) の取組と関連科目

新学期を迎えて、どんな授業をとろうか履修計画を立てながら心躍らせていることでしょう。ここでは皆さんの授業選びの参考に2007年度から一橋大学で始まっているジェンター教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

■ GenEPとは？ (Gender Education programの略)

私たちの大学では、2005年度より「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」(GenEP) プロジェクトを始動しました。これは、社会学部の教員が全学の教員と連帯しながら、男女共同参画社会実現に向けた本学ならではのジェンダー教育プログラムの策定を目指した活動です。このGenEPプロジェクトの2年間の活動をへて、2007年度から新しいジェンダー教育のプログラムが始まりました。共学の大学として男子学生・女子学生が肩を並べて男女共同参画社会に向かう時代のトレンドを学び、相互の課題を受けとめあうことはとても大切なことです。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から学部・大学院科目まで体系的に組まれたこのジェンダー教育プログラムの授業に積極的に授業に参加されることを期待します。

▶ ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
マースリータワー6階 3617 <http://www.soc.hit-u.ac.jp/gep/>



基 幹 科 目 群	ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げの履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的な素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。
連 携 科 目 群	ジェンダーが取り上げられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

■ 穏やかなスロープ？連携？

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連帯科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープをあがるように学んでいけるカリキュラムがつくられています。

■ キャリアデザイン？

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。

■ 労働・経営・ジェンダー？

2005年に行われた「一橋大学における男女共同参画に関する学生の意識・実態調査」で多くの学生から受講希望があった「労働とジェンター」、「経営とジェンター」をテーマとした講義が新設されています。ジェンターをより身近にとらえ、自らのキャリアデザインを具体的に描いてみてください。

■ 新しい社会科学？

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンターの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことを目指しています。

基幹科目 (学部)

ヒューマン・セクソロジー【全学共通／夏-火・2】	男女共同参画時代のキャリアデザイン【全学共通／夏-木・4】
村瀬幸治 男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性 (Sexuality) の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。	西山昭彦／オムニバス (如水会講師) 人材のダイバーシティ、男女共同参画、ワークライフバランスなど、新たな社会的トレンドの背景と具体的な実践例を学ぶ場を提供します。企業で活躍する本学卒業生、官界で男女共同参画に携わる方々、経営トップの方々によるオムニバスです。
ジェンダーと心理学【全学共通／冬-火・3】	ジェンダーから世界を読む【全学共通／冬-水・2】
柘植道子 社会における性別の持つ意味や問題に心理学の視点からアプローチします。心理学の理論のなかでジェンダーはどのように捉えられ、研究されているのか。ジェンダーとメンタルヘルスにはどのような関係があるのかについて学んでいきます。	中井亜佐子／オムニバス さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解く試みです。今学期の講義ではとくに、国民、民族、「人種」などといった問題系と、ジェンダーやセクシュアリティの問題とがどのような形で関わり合うのかという点について、重点的に議論します。
ジェンダーと社会【社・基礎／夏-火・3】	家族社会学【社・発展／夏-木・3】
佐藤文香 ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマ別にジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。	木本喜美子 現代家族がかかえる問題を明らかにするために、家族の歴史変動過程を重視し、その把握と解析方法をめぐって理論的立場を異にする見解に検討を加えていきます。ジェンダー・アプローチが焦点となります。

連携科目 (学部)

全学共通科目

曜日・時限	講義名	担当者
夏-火・4	各国思想論Ⅰ（ドイツ語圏）	藤野寛
夏-火・3	Introduction to Counseling Psychology	柘植道子
夏-水・2	英文学講義Ⅰ	中井亜佐子
夏-金・3	台湾の歴史と文化	洪郁如
夏-木・2／冬-木・2	まちづくり（2009夏／冬）	林大樹・堂免隆浩

各学部の科目

学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
商・発展	冬-火・2／金・2	企業社会論	谷本寛治
経・発展*	夏-火・2	労働経済学Ⅰ	川口大司
経・発展*	冬-月・1／水・1	公共経済学	竹内幹
法・発展	冬-月・2	法言語文化論Ⅰ	小関武史
法・発展	冬-火・2	交渉文化論Ⅰ	吉野由利
社・導入	冬-月・3	社会研究入門ゼミ	坂元ひろ子
社・導入	冬-火・3	社会研究入門ゼミ	佐藤文香
社・基礎	夏-月・2	国際社会学Ⅰ	伊藤るり
社・基礎	夏-月・4	社会思想	森村敏己
社・基礎	夏-火・2	ヨーロッパ社会史総論	阪西紀子
社・基礎	夏-火・2	社会調査法Ⅱ	町村敬志
社・基礎	夏-水・2	社会学理論	多田治
社・基礎	夏-金・3	教育の歴史	関啓子
社・基礎	冬-火・3	社会と文化	洪郁如
社・基礎	冬-木・3	社会史史料講読Ⅲ	貴堂嘉之
社・基礎	冬-金・1	教育社会学	中田康彦
社・発展*	夏-水・3	アジア思想史特論	アン・ニ
社・発展	冬-月・2	身体と教育	中澤篤史
社・発展	冬-月・3	宗教社会学Ⅱ	深澤英隆
社・発展*	冬-金・2	社会調査特問	木本喜美子
社・発展*	冬-金・3	環境教育学	関啓子

2009年3月発行

編集・発行

一橋大学 大学教育研究開発センター